



雅楽である縦笛・筆箒を奏でる天女。「天女」は弁財天、大弁功德天とも弁天ともいい、弁舌、才知に優れ歌を詠み、音楽をつかさどり、妙音を発して人々を喜ばせます。また、仏法を流布し、寿命を延ばし、悪敵を退散させ、財宝を満足させ、利益を施すといわれています。この天女も見る角度や光の当たり具合により、多様な表情を見せてくれます。

よもやま話

雲蝶 時空を超えて 会いに行く



雲蝶さんの生まれた月日の手がかりになるものはないかと、新潟県立図書館に行きましたが、手がかりになる文献はありませんでした。その代わりに、雲蝶関連の本をいろいろ見ることができました。

図書館敷地内に、幸せの鳥と言われているフクロウを発見!!

冬の間、フクロウはどうしているのか気になります。

冬期間は、雪の中の雲蝶作品や、雲蝶関連の本を見るのもいいですね。

県立図書館「雲蝶関連の本」紹介

☆県立図書館で読むことができます。

『越後の名匠 石川雲蝶』

(木原尚/写真と文 新潟日報事業者 1993 N713-176)

『魚沼の先覚者

歴史を拓いた人びと』

(磯部定治/著 恒文社 1994 N281.4-185)

石川雲蝶の軌跡 (二人の名工)

中山道の熊谷宿に、源太郎さんという名工がいると聞き、雲蝶さんは仕事ぶりを見に行きました。

源太郎さんの彫刻を見た雲蝶さんはその素晴らしい技にびっくり仰天、じっと見いつてしまいました。気づいた源太郎さんが雲蝶さんに声をかけ一緒に仕事をする事になりました。源太郎さんは越後から仕事の依頼をうけていて、雲蝶さんも越後入りすることになりました。当時は街道の往来を取り締まる関所があつて、越後へ向かう三国街道の関所は猿ヶ京であり、二人は険しい山道を越えて越後入りしました。まず、二居で仕事をした後、二人は栃尾に向かい、常安寺の裏に守護神である秋葉三尺坊のお堂の彫刻をしました。

(文・イラスト 高橋郁丸)

これが二人の初めての合作となりました。



雲蝶と源太郎との出会い